

足助中央商店街協同組合(豊田市) 【代表者:代表理事 佐久間章郎】

キャッチフレーズ

“江戸から昭和までの時代”“四季”を感じるまちの中で、本物を守る商店街

活性化モデル商店街としてのモデル性

伝統的、歴史的な建物や四季折々の自然など、足助ならではの地域資源を活かして賑わいを創出する観光型商店街

商店街の将来ビジョン

足助地区は、江戸時代には尾張・三河と信州・美濃を結ぶ交通の要衝として栄え、主に三河湾で産する塩を馬によって運び「塩の道」と呼ばれていた。人口は減少傾向で高齢化も進んでおり、店主の高齢化、後継者不足、空き店舗の増加、小売吸引力の低下など課題も多いが、地区内には、香嵐溪のもみじや中馬のおひなさん、たんころりん等豊富な観光資源を有しているとともに、歴史を感じさせる街並みが残っており、こうした魅力ある自然・資源をハードとして活かし、来街者がまた行ってみようと思うものを提供するソフト活動(商店街活動)を行う。

- 1 魅力的な観光資源や街並みを活用し、着実に商いに結びつける取組を実施
- 2 足助地区商業の魅力向上のため、空き店舗への対応や新規創業者の導入や誘致
- 3 高齢化社会に備え、地域住民及び周辺住民の日常の買い物に対応

具体的に取組む事業内容

いなり市(塩の道づれ市)(20年度～22年度)

古くから「塩の道」の交流地点として栄えたことを活かした市を毎月開催する(各地の塩の交流、地産地消による周辺住民との交流)。

夏祭り(20年度～22年度)

万灯を灯し、商店街のたんころりん、川岸のあかりで足助の夏の夜の風情を楽しむイベントを開催する。

一店逸品事業(21年度)

それぞれの店舗のおすすめ商品をPRする一店一品運動「あすけぬくもりコレクション」の参加店舗の拡大を図る。

空き店舗活用事業(20年度～22年度)

歴史的、文化的価値ある空店舗(空家)を活用し、建物の保持や町並みの連続性を保持しつつ、必要業種や不足業種を充実させる。